

統合小学校の基本設計段階における、緑についての検討事項

平成 19 年 3 月 7 日

小林新

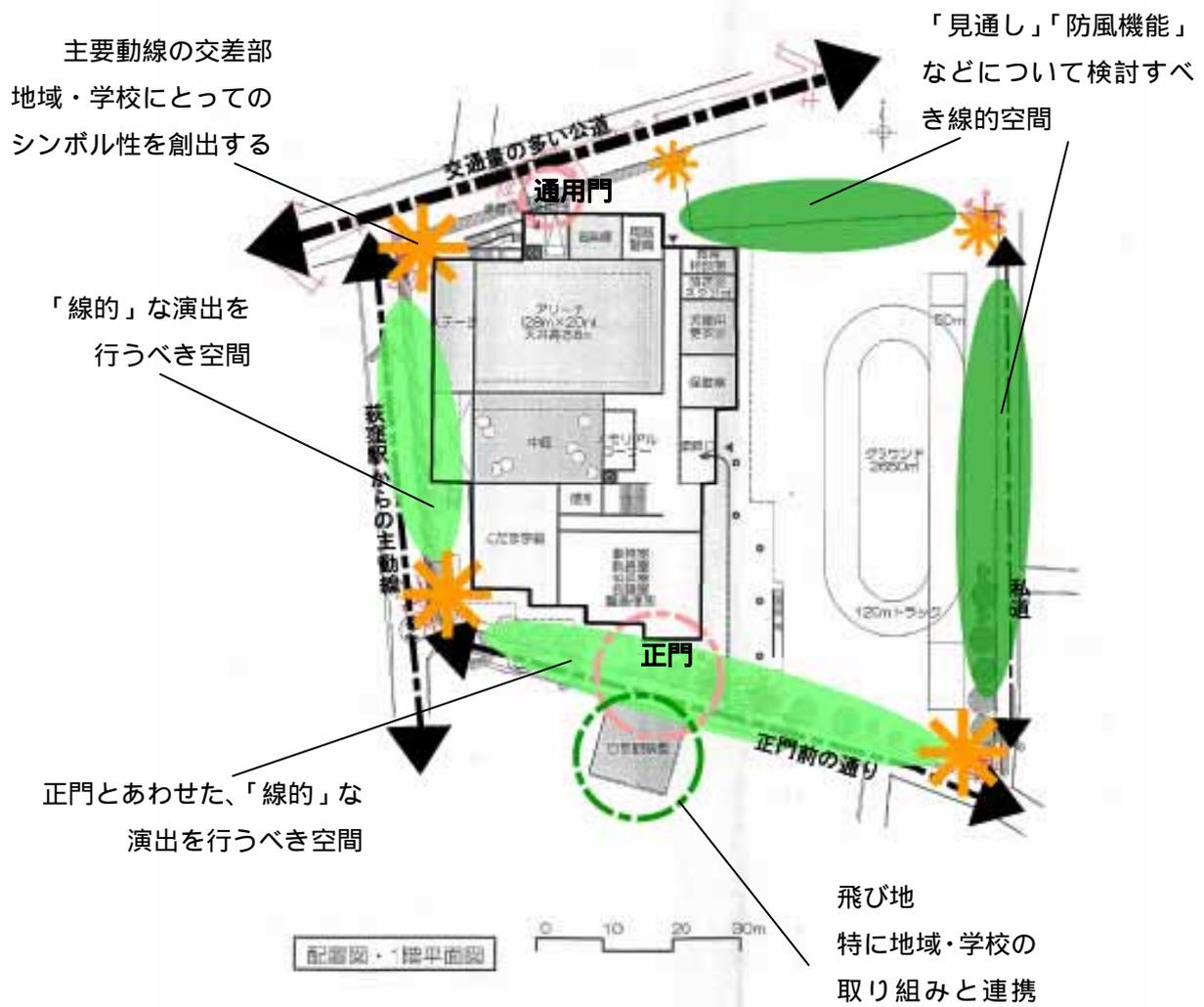
「学校の基本計画」を考えるにあたり、下記の点は明確にすべきと考えます。

1 周辺地域における計画地の位置づけ

- ・ 以前、設計事務所様が緑の基本計画などの上位関連計画、および地域の自然資源について資料を作成して下さったかと思えます。そこからなにが読み取れたのか、整理すべきと考えます。

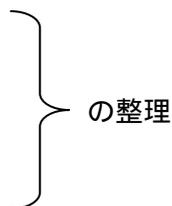
2 計画地の空間構成上の緑の位置づけ

- ・ 上記「1」を踏まえた上で、次のような検討をすべきと考えます。



3 既存木の扱い

- ・ 切らなければならない木
- ・ 切るべき木
- ・ 残す木
- ・ 残したい木



4 地域の活動や教育プログラムとの連携

既存の活動・プログラムにどのようなものがあるか

教材園でのサツマイモ、ジャガイモ、糸瓜、苦瓜等の栽培
児童会主催の花作り
池での生き物観察と飼育（おたまじゃくし、めだか、金魚等）
バケツで稲作り
1年アサガオ、2年ミニトマト栽培
春や秋探し

新校で新たに取り組むものはあるか

ビオトープでの生き物観察・飼育
屋上でのはだしでの活動や休息
親父の会主催の活動～焼き芋や芋煮会等

そのうち校内で取り組めるものはなにか。それについてどのような空間が必要か

屋上の緑化、芝生、ビオトープ化
校庭周囲の花壇
野外活動用スペース（狭くても火が使える場所）

今回の計画においては、量的な緑の整備はかなり制限がされるので、いかに質の高い緑を配置し、維持管理できるかが肝だと思えます。
ぜひここは再整理していただきたい。

5 基本設計レベルの検討

別紙を「例」としてあげます。